

こやまちょうじゃ  
湖山長者

～ちよつとざんねんなお金持ちの話～  
かねも はなし





朗読音声のダウンロード  
Audio download

## よ まえ ★読む前に Before you read

### 《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



### 《How to do Tadoku》

Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





いけ いけ なまえ こやまいけ  
これは池です。池の名前は「湖山池」です。



こやまいけ ひろ た  
湖山池はむかし、広い田んぼでした。

た ぜんぶ いけ  
ある日、田んぼが全部、池になりました。

いけ  
なぜ、池になったのでしょうか。

とっとりけん ばなし  
これは鳥取県のむかし話です。





かねも かねも  
むかし、お金持ちがいました。このお金持ち  
ひろ た いえ きん ぎん  
は、広い田んぼと、りっぱな家と、金、銀をたくさ  
も むら ひと かねも  
ん持っていました。村の人たちは、このお金持  
こ やまちょうじゃ よ  
ちを「湖山長者」と呼んでいました。



にほん はる たう こめ つく  
日本では、春に田植えをして、米を作ります。

ちやうじゃ いえ いちにち たう お  
長者の家では、「一日で田植えを終える」と、

むかしから決まっていた。毎年、長者はたく

さんの人を使って広い田んぼの田植えをしまし

たので、田植えは一日で終わっていました。



ことし たう はじ むら ひと  
今年も田植えが始まりました。村の人がたく

てつだ あさはや はたら  
さん手伝います。みんな朝早くから働きます。

ちょうじゃ ことし いちにち たう お かんが  
長者は、今年も一日で田植えが終わると考え  
ていました。



ひ ひる ちか やま き  
その日の昼、近くの山からサルが来ました。

かあ こ ひとり  
お母さんのサルと子どものサルでした。一人の

おんな ひと み  
女の人がサルを見つけました。そして「サルだ、

おお こえ い  
サルだ」と大きい声で言いました。







サルはびっくりして走り始めました。みんなは、

サルが遠くの山に帰るまで見ていました。

サルを見たのは少しの時間でした。しかし、

仕事は大きく遅れました。



ゆうがた ちょうじゃ た き たう  
夕方、長者が田んぼに来たとき、田植えは、  
お ちょうじゃ あお  
まだ終わっていませんでした。長者は青くなり  
いえ き いちにち たう お  
ました。「家の決まりは一日で田植えを終える  
ことし たう お  
こと。これでは今年田植えが終わらない」



「よし、お日<sup>ひ</sup>さまをもどして、夜<sup>よる</sup>になるのを  
おそ<sup>おそ</sup>遅<sup>い</sup>くしよう」と言いました。長<sup>ちやう</sup>者<sup>じゃ</sup>は家<sup>いえ</sup>から金<sup>きん</sup>の  
おうぎ<sup>も</sup>を持<sup>も</sup>ってきました。



そして、お日<sup>ひ</sup>さまに「もどれ、もどれ。田<sup>た</sup>植<sup>う</sup>え  
が<sup>お</sup>終わるまでそこにいろ」と言いながら、おうぎ  
を<sup>さんかい</sup>三回ふりました。すると、お日<sup>ひ</sup>さまがすっすっ  
す<sup>たか</sup>っと高くもどりました。

ちようじゃ い  
長者はみんなに言いました。

「さあ、みんな、<sup>た う</sup>田植えを<sup>つづ</sup>続けよう。<sup>た う</sup>田植えが  
<sup>いちにち</sup>一日で<sup>お</sup>終わるように」

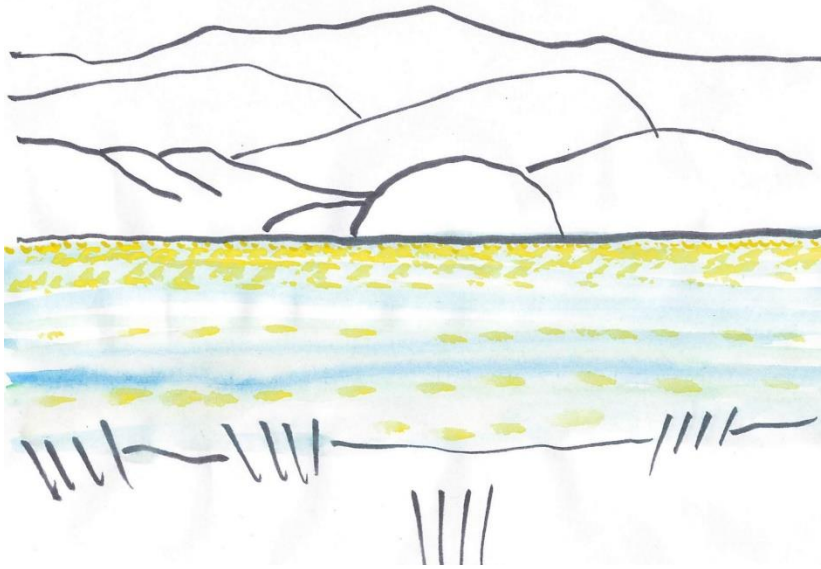


た う いちにち お ちようじゃ  
田植えは一日で終わりました。長者はその  
よる いえ しょうたい さけ  
夜、みんなを家に招待しました。みんなはお酒  
の ちようじゃ うた おど  
をたくさん飲みました。長者は歌って踊りました。



みんなが<sup>さけ</sup>お酒を飲んでいるとき、<sup>そと</sup>外では  
<sup>たいへん</sup>大変なことが<sup>お</sup>起こっていました。た<sup>みず</sup>くさんの水が  
<sup>ちようじゃ</sup>長者の<sup>た</sup>田んぼに<sup>なが</sup>流れて<sup>はい</sup>入ってきました。そして  
<sup>みず</sup>水は、<sup>よる</sup>夜の<sup>あいだ</sup>間に<sup>た</sup>田んぼを<sup>みず</sup>水の下に<sup>した</sup>深く<sup>ふか</sup>かくし  
てしまったのです。





つぎ あさ た  
次の朝、田んぼはもうありませんでした。そ  
のかわりに、ひろ ひろ ひと いけ いま こやまいけ  
のかわりに、広い広い一つの池、今の湖山池  
がありました。

ちようじゃ た ぜんぶ  
長者の田んぼは全部、なくなっていました。

どうして水<sup>みず</sup>が出てきて長<sup>ちやうじゃ</sup>者の田<sup>た</sup>んぼを水<sup>みず</sup>の  
下<sup>した</sup>にかくしてしまったのでしょうか。

村<sup>むら</sup>の人<sup>ひと</sup>は、「長<sup>ちやうじゃ</sup>者<sup>ひ</sup>がお日<sup>ひ</sup>さまをもどしたので、  
神<sup>かみさま</sup>様が怒<sup>おこ</sup>ったからだろう」と言<sup>い</sup>いました。

とっとりけん こやまいけ  
鳥取県の湖山池



さいわ とよた まき おおいたはつ よ つく かい  
再話：豊田真規（大分発わくわく読みものを作る会）

イラスト・図：

とよた まき  
豊田真規

いらすとや

illustAC

EVENTs Design

さんこうぶんげん  
参考文献：

日本児童文学者協会編（1978）「湖山長者」『ふるさとの民話7 鳥取県』偕成社

野津龍（1979）「湖山長者」『子どものための鳥取の伝説』  
鳥取大学教育学部/San'in Hoso

鳥取県小学校国語教育研究会編（1985）「まいもどったおてんとうさん」『鳥取のおかし話』日本標準

ほん なか に じしやう きん  
この本の中のイラストの二次使用を禁じます。



